

[学園ビジョン R2030]

# 挑戦をもっと自由に

いま 世界と社会は 大きく 急激に 変わっています  
先を見据えることが極めて難しい局面を迎えています

このような時代の中で  
未来のあるべき姿を積極的に社会に提起していくとともに  
柔軟に 粘り強く 変化に対応できる力を育み  
多様な人々が集う学園の創造を通じて社会に貢献します

このために 異なる価値観を認め合い  
摩擦を恐れず 高め合い これまでの限界を超えていく

あらゆる人の自由な挑戦が  
希望に満ちた未来につながる社会を目指して  
私たちはこれからも挑戦を続けます

## 立命館大学 学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、主体的に学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

## R2030中長期計画

立命館学園は、建学の精神と教学理念のもと、先進的な教育・研究に取り組んできました。2010年には、「Creating a Future Beyond Borders 自分を超える、未来をつくる。」を2020年に向けた学園ビジョンとして掲げ、より積極的に学園創造を進めてきました。今、私たち立命館学園は、その精神と理念、歴史を受け継ぎ、2030年に目指す新たなビジョンとして、「学園ビジョン R2030」を掲げます。

## 立命館大学 大学案内 2027

### CONTENTS

- 002 立命館憲章・学長メッセージ
- 003 建学の精神・教学理念・国際化のあゆみ
- 巻頭特集**
- 004 「Futurize. ～立命館がわかる7つのポイント～」
- 006 CHALLENGE YOUR MIND.
- 008 CHANGE OUR FUTURE.
- 010 INNOVATE. SHAPE SOCIETY.
- 012 学部 INDEX
- 014 アドミッション・ポリシー [求める学生像]

### 京都 衣笠キャンパス

- 016 法学部
- 020 産業社会学部
- 026 国際関係学部
- 030 文学部
- 042 デザイン・アート学部

### 大阪 大阪いばらきキャンパス(OIC)

- 046 経営学部
- 050 政策科学部
- 054 総合心理学部
- 058 グローバル教養学部
- 062 映像学部
- 066 情報理工学部

### 滋賀 びわこ・くさつキャンパス(BKC)

- 072 経済学部
- 076 スポーツ健康科学部
- 080 食マネジメント学部
- 084 理工学部
- 092 生命科学部
- 098 薬学部

- 102 立命館大学の学びと特長／外国語・グローバル教育
- 108 大学院・研究推進
- 112 学部別 進路・就職状況
- 116 進路・就職支援
- 122 課外自主活動
- 124 奨学金制度・学生生活サポート
- 130 キャンパス周辺エリアガイド
- 132 キャンパス・施設紹介
- 140 入試基本情報・入試イベント・関連サイト
- 144 交通アクセス

## 立命館憲章

立命館は西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、「立命館」は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館に集う私たちは、建学の精神である「自由と清新」を尊び、教学理念として「平和と民主主義」を掲げる。

立命館は第二次世界大戦の痛苦の体験を踏まえ、歴史を誠実に省みて戦争と暴力を否定し、民主的な学園運営の歩みを進め、平和の理想を希求し続ける。立命館は不断に国際化を追求し、私立総合学園として、大学院生、学生、生徒、児童および教職員の参画と、校友、保護者および学園にかかわるあらゆる方々による支援のもと、自由な挑戦と創造性をもって社会に貢献していく。

立命館は多様性を尊重する。私たちは、誰もが等しく有する尊厳を重んじ、ひとりひとりに宿る創造性を貴ぶ。そして地域社会に根ざしつつ広く学園内外と協働し、研究、教育、文化・芸術、スポーツなどの多様な活動を通じて、自己の成長と包摂的な社会の実現に努める。

立命館は学問研究の自由を礎として未来を切り拓く。私たちは、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、あまねく共有される新たな共生価値をもたらす知的創造に果敢に挑む。そして私たちは、「未来を信じ、未来に生きる」の精神を受け継ぎ、研究大学・探究学園におけるそれぞれの活動が未来の世界を生み出す営みであることを心に刻み、持続可能な社会の創造と世界の平和の実現に尽くす。

2006年7月21日 制定  
2026年3月27日 改正  
学校法人 立命館

### 学長メッセージ

立命館大学は、1869年、新しい時代を担う若者を育てるため、西園寺公望が私塾「立命館」を創始し、1900年、文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、その意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を創立したことに始まります。

長い歴史を有し、京都の衣笠と朱雀、滋賀、大阪にある4つのキャンパスに、3,000名を超える海外留学生を含む約39,000名が学び、研究する、ダイバーシティと知的躍動感にあふれた私立総合大学です。17の学部、22の大学院研究科を擁し、6つの研究機構に約50の研究センターを設けるなど、高度な研究力と産学官地連携の推進において、国内外から高く評価されています。

世界は今、国際紛争と新たな国際秩序の形成、気候変動、人口・食料問題、エネルギー問題など、人類史的とも謂える難しい課題を抱えています。これらを克服し、持続可能な社会を構築するためには、新たな価値や概念を生み出す必要があります。立命館大学は、その役割を果たすべく、2030年に向け、社会に変革をもたらすイノベーション・創発性人材を輩出する「次世代研究大学」になることを目指しています。

「Futurize. きみの意志が、未来。」

これは立命館大学の中期計画の価値観や姿勢を示すタグラインとして掲げている言葉です。大切なことは、「未来への意志」を持つことです。これまでの常識や枠組み、固定観念にとらわれることなく、むしろそれらを疑い、未来のあるべき姿を探究する、皆さん一人ひとりの意志ある挑戦に期待しています。

挑戦することの原動力は、わくわくする心です。学ぶこと、探究すること、研究することも挑戦であり、わくわくする心なのです。皆さんもぜひ、進む道に悩んだときは、わくわくする方へ進んでみてください。

自由な挑戦を通じて、未来を切り拓いていく皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



立命館大学長  
仲谷 善雄

## 「立命館」名称の由来

「立命」というのは中国の古典「孟子」の盡心章（じんしんしょう）の一節にある「夭寿（ようじゅ）貳（たが）わず、身を修めて以て之れを俟（ま）つは、命を立つる所以（ゆえん）なり」から採ったもので、「人間には、若死にする人もあれば、長生きする人もあるが、それはすべて天命で決められていることである。だから生きている間はわが身の修養（勉強）に努めて天命を待つのが人間の本分を全うすることなのである」という考えです。したがって、「立命館」は人間がその本分を全うするための場所を意味しています。

## 建学の精神「自由と清新」／教学理念「平和と民主主義」

学祖である西園寺公望は、「自由主義」と「国際主義」を標榜し、日本が世界の一員として十全な役割を發揮することを生涯の課題としました。その後、西園寺の「自由主義と国際主義」の精神を受け継いだ中川小十郎が、「自由にして清新」な学府、つまり、自由にして進取の気風に富んだ学園の創造を目指しました。この「自由と清新」は、立命館建学の精神として、今日まで受け継がれています。そして戦後、立命館学園は末川博を総長に迎え、第二次世界大戦と十五年戦争に対する深い反省に立って、憲法と教育基本法に基づく「平和と民主主義」を教学理念として掲げました。これら建学の精神と教学理念は、実際の教育や研究に生かされ、様々な取り組みにつながっています。

## 立命館の歴史と国際化のあゆみ

立命館学園は、2025年度に創始155年、創立125周年を迎えた、日本における私立総合学園の中でも歴史と伝統をもつ学園の一つです。

立命館の歴史は、近代日本の代表的な政治家で、国際人であった西園寺公望が1869（明治2）年、新しい時代を担う若者を育てるため、私塾「立命館」を創始したことに始まります。その後、1900（明治33）年、文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、その意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を創立しました。1913（大正2）年には、西園寺の許諾を得て、「私立立命館大学」と改称しました。そして立命館は、「世界に開かれた立命館」を目指し、特に1980年代半ば以降、日本の大学の国際化をリードしてきました。



学祖 西園寺公望



創立者 中川小十郎

### 〈略年表〉

1869年	西園寺公望（学祖）が私塾「立命館」を創始	2012年	文学部が「キャンパスアジア・プログラム」を開始
1900年	中川小十郎が「私立京都法政学校」を創立	2013年	政策科学部に「Community and Regional Policy Studies専攻」を設置
1905年	西園寺公望が「立命館」の名称継承を許諾		中国・大連理工大学と共同で「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」を開設
1913年	大学を「私立立命館大学」と改称		
1933年	京大事件で辞職の教員18名を受入	2014年	平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択
1945年	末川博が立命館大学学長に就任 ※戦後、学長に就任した末川博は、さまざまな学園改革を行った	2015年	大阪いばらきキャンパス（OIC）を開設
1948年	学校教育法による「立命館大学」（新制）を設置	2017年	情報理工学部に「情報システムグローバルコース」を設置
1988年	国際関係学部設置、京都国連寄託図書館を設置	2018年	アメリカン大学と共同で「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」を設置
1991年	立命館・UBCジョイントプログラムを開始	2019年	グローバル教養学部を開設
1994年	びわこ・くさつキャンパス（BKC）を開設 アメリカン大学との共同学位プログラム（DUDP）を開始		国際交流拠点「分林記念館」を開設
2000年	「立命館アジア太平洋大学」を創立	2020年	文学部に「国際コミュニケーション学域」「言語コミュニケーション学域」を設置
2006年	「立命館憲章」制定、朱雀キャンパスを開設	2025年	「スーパーグローバル大学創成支援事業」の最終評価でS評価（最高評価）を獲得
2009年	「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（G30）」採択	2026年	デザイン・アート学部を設置
2011年	国際関係学部に「グローバル・スタディーズ専攻」を設置		

世界はグローバル化が進み、これまで経験したことのない地球規模の課題に直面しています。それらの課題に真摯に向きあい、強い意志と使命感を持って解決に挑んでいるたくさんの方の「立命人」がいます。

全国から、世界から立命館に集い、ともに学び、力をつけた約42万名の卒業生が、世界のあらゆるところで地域の人たちと手を携え、未来の社会を創っています。

[巻頭特集]

# Futurize.

## 立命館がわかる7つのポイント

学部生約34,800名、大学院生約4,300名、教職員約2,500名の

多様な存在が互いに刺激を与え、切磋琢磨し、互いの要素を最大限生かして高め合う。

多様性あふれる学びの環境は、驚きと感動に満ちています。

仲間とともに学び、自分自身と向き合い、

挑戦しながら、時には失敗して、また挑戦する。

立命館大学で過ごす時間の中で、一人ひとりが自分らしく成長し、

世界中のあらゆる場で貢献できる存在になってほしいと願っています。

## CHALLENGE YOUR MIND.

### 挑戦を続けるキャンパス

立命館大学の最大の魅力は「多様性」です。日本全国・世界各国・地域から多様なバックグラウンドを持つ個性が集まり、刺激しあいながら日々選択と挑戦を続けています。互いの個を尊重しながら融合し、新しい学びや価値を創造できるキャンパスがここにあります。

## CHANGE OUR FUTURE.

### 研究を通して次世代を担う知的価値を創出

立命館大学は社会課題の解決に向けて、価値とイノベーションの創出、その担い手の育成に取り組みながら「次世代研究大学」を目指しています。そのために産学官地で連携し、あらゆる分野を融合させ、誰もが知的生産者の一人としてその力を発揮できるような場を提供します。

## INNOVATE. SHAPE SOCIETY.

### 新たなイノベーションはここから

立命館大学は「イノベーション・創発性人材の育成」に向け、大学内外を問わない連携を通じて新たな発想を具現化し、社会課題の解決へ挑戦する場を提供しています。多様な学生が集う環境に身を置くことで生まれる学生の自由な挑戦や経験を後押しし、培ったアイデアや研究成果を形にするサポートを行っています。

# CHALLENGE YOUR MIND.

## 挑戦を続けるキャンパス



### POINT 01

#### 知の拠点として、社会課題の解決にチャレンジする私立総合大学

立命館大学は、社会科学・人文科学・自然科学に跨る17の学部、22の大学院研究科をもつ、総合大学です。多様な学問分野が交差する「知の拠点」として、社会課題の解決に挑み続けています。そこには、学びの関心や目的もさまざまな学生が集まっています。学部ごとの学びに加え、たとえば教養科目の授業では多様な学部の学生が交じり合って学びます。だからこそ、互いに尊重しあい多様な価値観や感性を受け入れるなかで、それぞれの学びが広がり、一人ひとりの成長を実現していくことができます。

#### 学部・研究科数

学部

17

研究科

22

### POINT 02

#### 多様なニーズにこたえる機会提供と環境整備

立命館大学は、これまでも学生のさまざまな挑戦をサポートする制度や環境を整え、学生の成長のための自由な挑戦を支援してきました。留学制度では、短期から中長期までさまざまなプログラムを用意し、世界レベルの大学の研究・教育に触れる機会を提供しています。また奨学金や助成制度も充実させ、学修・留学・課外自主活動など、経済的理由で未来の可能性をあきらめることのないよう、支援する制度を設けています。キャリア支援では、学生一人ひとりの希望進路にあった多様なキャリア支援プログラムや企画を提供しているほか、難関試験や資格取得のための対策講座なども充実させています。また、これらの学びや活動をスムーズに行えるよう、Wi-Fi や電源コンセントの増設、オンラインミーティングや面接などに対応した個室ブースの設置など、情報環境の整備にも努めています。今後も常に時代やニーズに応じた制度・環境を整え、学生が高い志をもって社会に飛び立てるよう支援していきます。

#### 留学可能な大学・機関

35  
カ国・地域

世界



157  
大学・機関

※2025年5月1日時点

#### 国家公務員総合職試験(春試験)の最終合格者数

全国  
6位  
(全国私大2位)

※2025年度実績

- 1位 東京大学
- 2位 京都大学
- 3位 早稲田大学
- 北海道大学
- 5位 東北大学
- 6位 立命館大学

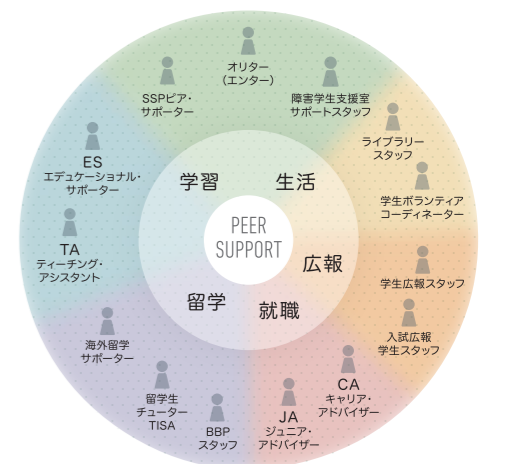
海外留学 → P.105 ~ 進路・就職 → P.112 ~ 奨学金制度 → P.124 ~  
情報環境 → P.128

### POINT 03

#### 一人ひとりの「挑戦」「成長」を支える仕組み

立命館大学では、さまざまな挑戦をしていく「学生を支えるための学生のコミュニティ」があらゆるところにあります。そこには活動を支援する「学生サポーター」(具体例は右記図参照)が存在し、学生同士の学びあい(ピア・サポート)が個や組織の成長につながっています。「オリター(エンター)」制度は本学ピア・サポートの起源とも言えるもので、2回生以上の先輩が初年次小集団クラスにおいて、新入生を学習面・学生生活面から支えています。多くの学生が大学の支援も活用しながら、日常的に助け合うことを通じて主体性を体得する経験を積んでいきます。サポーターの助けを借りて学びをよりスムーズに進められた学生が、その後支援する側に立つことで大学全体で学びあいの輪が広がっています。

BBP → P.104 SSP → P.128



### 次世代研究大学へ

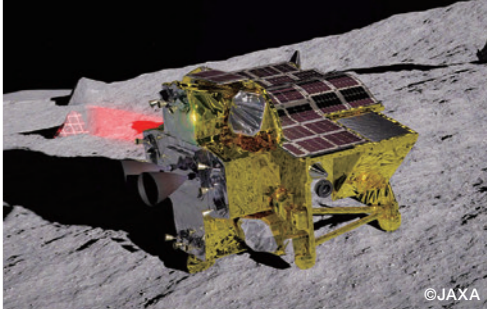
「新たな価値を創造する次世代研究大学」と「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」を本学が将来あるべき姿として学園ビジョンに掲げ、外部資金獲得につながる成果の創出や研究拠点形成に積極的に取り組んでいます。文部科学省から助成される競争的研究資金のひとつ科学研究費助成事業では、西日本私立大学1位(全国私立大学4位)の配分額となり、全国レベルの実績を誇っています。

また、2024年度には文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました。J-PEAKSは地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携や研究活動の国際展開、社会実装の加速などにより大学全体の研究力強化を推進する事業です。

加えて、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が公募する令和6年度「宇宙戦略基金事業」における「技術開発テーマ・SX研究開発拠点」に東京大学、名古屋大学、国立天文台とともに私立大学からは唯一採択されました(本学課題名:月面探査・利用を産業化するための宇宙機器開発・人材育成拠点)。

これを支えるのが立命館大学 宇宙地球探査研究センター(ESEC)です。これは月・惑星における人類の生存圏拡張と、将来的な居住・生活圏構築に先駆けた探査拠点となる宇宙開発・インフラ構築に取り組む日本初の研究組織です。「人類の生存圏の維持と拡大に貢献する」というビジョンのもと、これからも多様な領域において研究を深めていきます。

2025年7月より、びわこ・くさつキャンパス(BKC)に新施設として「立命館先端クロスバースイノベーションcommons(CVIC)」の運用を開始しました。CVICは「身体圏」という新たな研究領域を創生し、スポーツ健康科学、脳神経科学、情報科学、心理学、人間科学などの多様な研究分野からアプローチする学際共創ハブの拠点となる施設です。国内最大級の複合現実感アリーナ「X-Verse Arena」をはじめ、VR・MR環境、睡眠測定室、fMRIなど多様な先端設備を完備し、生体・心理・行動の多面的な計測が可能です。ここでの実証データを蓄積・提供することで、社会課題の解決と新たな価値の創造に貢献します。



#### 科研費(科学研究費助成事業)

14億  
8,200万円

西日本私立大学  
1位  
(全国私立大学4位)

立命館大学研究活動報  
『RADIANT』

※2025年度配分額(新規+継続)

立命館大学研究活動報『RADIANT』  
https://www.ritsume.ac.jp/research/radiant/

研究推進 → P.110

POINT 05

### 「世界のトップ2%の科学者」に本学から54名がランクイン

米国スタンフォード大学とエルゼビア社による「世界のトップ2%の科学者」を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」が更新され、立命館大学から54名の科学者が選出されました。このリストはScopus(文献データベース)の情報に基づき、22の研究分野と174のサブ分野で論文を発表している科学者が対象として分析されます。総被引用回数、h-index、単著論文数、個別引用論文数などの複合的指標により評価されました。立命館大学は社会共生価値を創出する次世代研究大学の実現を目指しています。世界各国、さまざまな研究分野の科学者や機関と連携し、今後も世界トップ水準の研究成果を生み出します。さらなるイノベーションの創出、また地球規模で生起する社会問題への対処、教育への還元などを積極的に行っていきます。

世界のトップ2%の科学者  
54名  
の教員が選出

※2025年9月19日時点

# CHANGE OUR FUTURE.

## 研究を通して次世代を担う知的価値を創出

# INNOVATE. SHAPE SOCIETY.

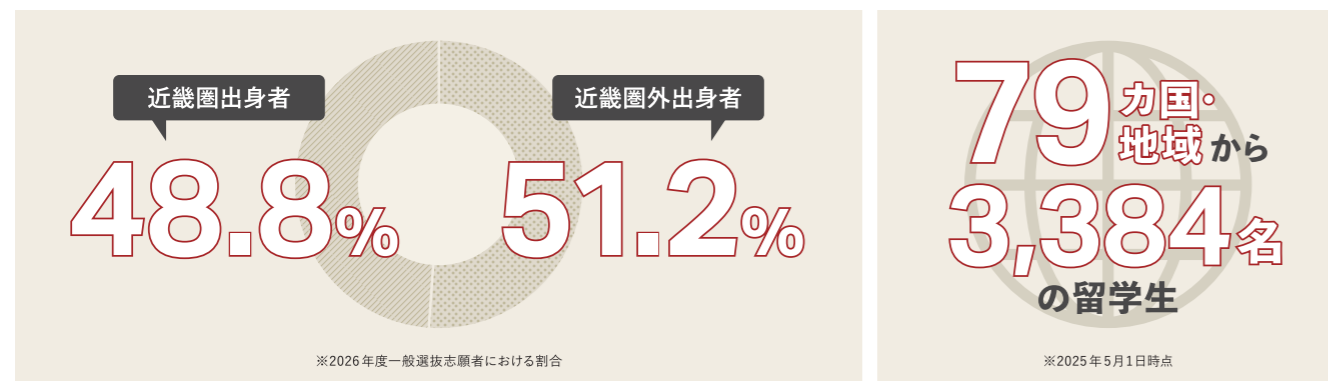
新たなイノベーションはここから



## POINT 06

### 多文化共生 — 全国・世界中から立命館へ —

立命館大学には、全国・世界中からさまざまなボーダーを越えて仲間が共に学んでおり、大学生活のあらゆる場面で正課・課外問わず交流しています。国内学生は約半数が近畿圏外から、また国際学生は79カ国・地域の出身者がキャンパスに集い、文化や価値観の違いなどを互いに認め合いながら、新たな価値を創造しています。



## POINT 07

### 社会共創の実現を目指すための取り組み

立命館大学は政府・自治体、産業界や地域社会、世界の大学や研究機関とも連携した社会課題の発見・解決、新しい価値の創出に向けた教育・研究を目指しています。2024年に完成した大阪いばらきキャンパス (OIC) の新棟 (H棟) では、世代・分野を超えてさまざまなプレーヤーが集い、プロジェクトに参加できる「SEEDS MEMBER」として自身の興味関心に挑戦しています。現在300名を超えるメンバーが専用の活動拠点「SEEDS」で経験を深め、多くの人との交流を通して新たな視点を発見しています。

びわこ・くさつキャンパス (BKC) ではグラスルーツイノベーションセンター (GIC) の運用が2025年7月より始まりました。学生・研究者・企業・地域がつながり、新たな発想を形にして社会課題解決に挑戦する場を提供しています。大学発スタートアップの創出や産学連携による社会実装を推進し、新たな社会共生価値の創出を目指します。

また、学生起業支援にも力を入れています。経済産業省が発表した大学発スタートアップ調査で、立命館大学は2023年度の大学発ベンチャー数が135社となり、総合順位で全国10位となりました。立命館大学は、2021年6月からオープン・イノベーションを通じた起業・事業化をワンストップで推進する専門組織「起業・事業化推進室」を立ち上げ、グラスルーツ・イノベーションを方針として、研究シーズの事業化や小学校から大学院までの一貫教育型アントレプレナーシッププログラムを進めてきました。2020年に社会課題解決型のスタートアップに投資するファンド「立命館ソーシャルインパクトファンド」を立ち上げ、インパクト投資型の手法を用い、地域社会課題などを解決する事業を支援しています。



グラスルーツイノベーションセンター (GIC)